

広島中央環境衛生組合地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の実施状況について

1. 令和6年度の点検・評価結果の総括

令和6年度における本組合事務・事業に係る「温室効果ガス排出量」は、集計の結果30,220t-CO₂となり、基準年度である平成25年度の排出量37,352t-CO₂と比較して7,132t-CO₂の削減となりました。これには、令和3年10月の広島中央エコパークの供用開始により、施設の集約化を行ったことが大きく影響しています。

今後は、これまでの取組を着実に推進するとともに、年度ごとに点検を行い、温室効果ガスの排出量の削減に努めて参ります。

表1. 基準年度との比較

※調整後排出係数に基づく数値のため、以降の表に記載する実績値とは一致しません。

区分	排出量（単位：t-CO ₂ ）		削減量 (削減率)
	基準年度(2013年度)	2024年度	
温室効果ガス	37,352	30,220	-7,132 -19%

2. 温室効果ガス排出量

（1）温室効果ガス総排出量

本組合事務・事業の「温室効果ガス総排出量」概況を表2に示します。

表2. 本組合の「温室効果ガス総排出量」概況

（単位:t-CO₂）

年度 温室効果ガス	2013年度	2024年度		2030年度		
	【基準年度】	【実績値】	基準年度との比較		【目標排出量】	
			増減	削減率		
温室効果ガス総排出量	37,352	30,101	-7,251	-19%	—	—
エネルギー起源二酸化炭素	11,405	6,967	-4,438	-39%	5,588	-51%
	燃料の使用	436	6,438	1377%	—	—
	電気の使用	10,969	529	-95%	—	—
非エネルギー起源二酸化炭素	25,947	23,134	-2,813	-11%	19,460	-25%

※基礎排出係数に基づく数値を使用しています。

(2) 温室効果ガス排出量の内訳

本組合の温室効果ガス排出量の内訳を表3に示します。

表3. 本組合の温室効果ガス排出量の内訳

排出要因 年度	2023年度		2024年度		(単位:t-CO ₂)	
	【前年度】		【実績値】	前年度との比較		
	増減	削減率				
エネルギー起源二酸化炭素	6,204	6,967	763	12%		
	燃料の使用	5,586	6,438	852	15%	
	ガソリン	5	4	-1	-	
	灯油	0	0	0	-	
	軽油	37	40	3	-	
	A重油	527	1,047	520	-	
	ガス(LPG)	70	67	-3	-	
	石炭コークス	4,947	5,280	333	-	
	電気の使用	618	529	-89	-14%	
	非エネルギー起源二酸化炭素	23,253	23,134	-119	-1%	
一般廃棄物中の廃プラスチックの焼却	23,253	23,134	-	-		

(3) 施設ごとの温室効果ガスの排出量

本組合における施設ごとの温室効果ガス排出状況を表4に示します。

表4. 施設ごとの温室効果ガス排出量

施設 年度	2023年度		2024年度		(単位:t-CO ₂)	
	【前年度】		【実績値】	前年度との比較		
	増減	削減率				
エネルギー起源二酸化炭素	6,204	6,967	763	12%		
	広島中央エコパーク	5,572	6,409	837	15%	
	賀茂環境センター	388	366	-22	-6%	
	竹原安芸津最終処分場	40	2	-38	-95%	
	大崎上島環境センター	16	23	7	44%	
	大崎上島クリーンセンター	165	147	-18	-11%	
	賀茂環境衛生センター多目的広場	22	20	-2	-9%	
	賀茂環境衛生センター※1	0	0	-	-	
	竹原安芸津環境センター※1	0	0	-	-	
	竹原クリーンセンター※1	1	0	-	-	
非エネルギー起源二酸化炭素	23,253	23,134	-119	-1%		
広島中央エコパーク	23,253	23,134	-	-		
賀茂環境衛生センター※1	0	0	-	-		
竹原安芸津環境センター※1	0	0	-	-		
大崎上島環境センター※2	0	0	-	-		

※1：施設集約化により2021年度で施設を閉鎖しています。

※2：施設集約化により2021年度でごみの焼却を終了し、現在はごみ中継施設として稼働しています。

3 評価

(1) エネルギー起源 CO₂排出量

令和 6 年度のエネルギー起源 CO₂排出量は 6,967t-CO₂で、基準年度である平成 25 年度の排出量 11,405 t-CO₂と比較して 39% (4,438 t-CO₂) の減少となり、削減目標の 51% (5,588 t-CO₂) まで、残り 12%となりました。

また、前年度の令和 5 年度と比較すると、12% (763 t-CO₂) の増加となりました。令和 3 年度に当組合の廃棄物処理施設を集約化して、供用開始した広島中央エコパークは、令和 4 年度から年間を通じた稼働体制に移行しています。

エネルギー起源 CO₂排出量を燃料と電気に分けて前年度と比較すると、燃料は 15% (852 t-CO₂) の増加、電気は 14% (89 t-CO₂) の減少が見られます。燃料の主な増加要因は A 重油及び石炭コークスの使用量の増加によるものであり、これらは広島中央エコパークの高効率ごみ発電施設で使用されています。前年度と比較すると A 重油及び石炭コークスの使用による CO₂排出量は 853t-CO₂の増加が見られ、施設の効率的な運転に努めていく必要があります。

(2) 非エネルギー起源 CO₂排出量

令和 6 年度の非エネルギー起源 CO₂排出量は 23,134t-CO₂で、基準年度である平成 25 年度の排出量 25,947t-CO₂と比較して 11% (2,813t-CO₂) の減少となり、削減目標の 25% (19,460 t-CO₂) まで、残り 14%となりました。

前年度である令和 5 年度との比較では、1% (119 t-CO₂) の減少となっています。

非エネルギー起源 CO₂排出量は、施設で焼却したごみに含まれるプラスチックの量によって算出されます。令和 5 年度と比較して、令和 6 年度はごみの焼却量は 71,161 t から 70,794 t に減少しました。また、焼却したごみに含まれるプラスチックの割合は 14.8%から 14.6%に減少しました。この割合はごみの組成分析によって算出されますが、値が大きく変動することもあるため、今後の動向を注視していきます。住民の皆様におかれましては、引き続き自治体のプラスチック製容器包装等のリサイクル推進の取組にご協力いただきまますようお願いします。

4 今後の取組

本組合では新たな取組として、令和 6 年度から、広島中央エコパークのごみ発電で得た環境価値の高いエネルギーである未利用エネルギーを組合管内施設へ導入し、電気の使用を起因とする CO₂排出量の削減に取組んでいます。

今後も一般廃棄物処理施設の安全で安定的な稼働に努めるとともに、引き続き温室効果ガス排出量の削減を進めていきたいと考えています。